

夢の超特急

新幹線0系

昭和四十年にこの世に生を受けた身としては、人生と共に歩んだその車両は

もはや移動手段でも趣味の対象ですらありません。

精神的な拠りどころであり、逆風吹き荒れるこの時代をして前へ進もうとする我々にとってのモチベーションの源…

そんな“夢の超特急”を飾るだけではない、いじって、遊ぶ… そう、これはまさにオモチャ。

しかも大人しか手に入られない、いじれない、まさに大人の贅沢なのです!

こんな商品を楽しむ時代に生まれ育ち、年代に達したことを感謝しようではありませんか!

樋口 真嗣 (映画監督)

この模型を見ていると、新幹線開業の日のことを思い出します。

昭和39年10月1日——。今から47年前のあの日が、明瞭によみがえってきます。

特に運転室。マスターコントローラーをはじめ、各種のメーターから表示灯に至るまで、

形といい、色といい、本物そっくり再現されていて、驚きです。

私はこの運転室で20年過ごしましたから、とても懐かしいです。まさに私の城が、ここに再現されました。

大石 和太郎 (新幹線開業日上り1番列車の運転士)

世界を魅了した新幹線。

あの頃の想いを乗せ、“夢の超特急”出発進行——。

※画像はイメージです。実際の商品とは多少異なる場合がございます。

0系模型史上、最高の再現度。

徹底した実機取材により、21型式1号車両を細部まで完全再現。

※21型式1号車両は交通科学博物館に展示されています。
 ※設計に関する資料提供 協力：星見氏(元国鉄副技師長)



後方のデッキには洗面所、トイレ、冷水器を再現。



運転台は様々な計器類、助手席を再現。



エアコンの通風口や無線アンテナを再現した屋根は取り外しが可能。



各車輪には金属素材使用。

車体側面は金属を使用し、重量感を演出。



車体の各所に記載された文字や表記も忠実に再現。



定員75名の転換式座席は全席、方向転換が可能。



標識灯は前灯と後部標識灯の切り替え点灯が可能。



前位出入り台用側引戸をはじめ、全てのドアが開閉可能。



客室内のカバー付き蛍光灯が点灯。



妻面の貫通扉は開閉可能。所属区所表示もリアルに再現。

ディスプレイスタンド

車体の奥側面と床下機器が見える専用ディスプレイスタンドが付属。



ミラーを多用した専用ディスプレイスタンドは飾った状態で車体の反対側や床下機器を見ることが可能。また背面ミラーパネルは取り外しができ、ホームから見たディスプレイも可能。